

豊中地区研究交流会運営補助に関するレポート

2022.3.15 作成

大学院基礎工学研究科 博士前期課程 2年

八尾 洋希

私は2年連続で研究交流会の運営補助に携わりました。そこで、大きく分けて4つのことを感じました。

1つ目は、自分の発表する場を設けてくださる人々に対する感謝の気持ちです。私も大学院生として学会発表や論文の投稿に携わることがありました。それらの機会を通して自分の研究を発表できることは、その場を設けてくださるスタッフの方々のおかげなのだと再認識できました。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

2つ目は、文理の壁を超えて交流することで新たな学びや気づきを得られるということです。私は理系学生であり、文学研究科等の文系の研究発表を聞いたことがありませんでした。特に国際公共政策研究科に関しては名前から研究対象がイメージできず、どんな発表をするのか気になっていたのので、聴講させていただきました。パラメータを設定したモデルを使って定量的に議論を進めたり、文化的背景といった定性的な考察もされていて非常に説得力のある発表でした。理系学生にとって定性的な議論というのは難しいところですが、発表の流れなど参考となる要素があり、たくさん学ばせていただきました。

3つ目は、最大限相手に伝える努力をしないといけないということです。今回いくつかのポスターセッションも聴講させていただきましたが、中にはポスターに専門用語が並び、興味が持ちづらい発表もありました。実際にそのセッションは閑散としており、議論が生まれる状況ではありませんでした。どれほど素晴らしい研究成果でも相手に伝わらなくては意味がありません。身近な例などで興味を持たせるなどの工夫をすることや、質問に対して簡潔に答えて的確に意図を汲み取ってもらうなど、発表の際最大限に努力しないといけないことを再確認しました。

4つ目は協力することの大切さです。研究交流会を運営している際に問題が複数起きたとき、他の留学生を含むアルバイトに割り振って問題に対処しました。配置等予め決めていましたが、皆臨機応変に対応してくれたために、滞りなく研究交流会を進めることができました。本当にありがとうございます。

今回学んだことを生かすために、今後とも関係各所への感謝を忘れずに研究及び発表に取り組みたいと思いました。自分の専門ではないことでも学び続ける姿勢を持つことで新たな視点が得られると感じたので、幅広く勉強をしていきたいと思いました。相手に説明する際に、私が知っていることは皆も知っているように感じ省いてしまうことがありますが、一度客観的に考えて聞き手が興味を持てるよう簡潔かつ明瞭に説明したいと思いました。最後に人に指示を与えて動いてもらい、イベントを滞りなく進められたので自分としては非常に自信につながりました。

4月から社会人となりますが、上記の学んだことを活かして少しでも社会の役に立てるよう頑張りたいと思います。